

は じ め に

個人であっても、機関や組織であっても切れ目のよい年を記念することは、洋の東西を問わず古くから行なわれていることだと理解しています。基生研も発足以来十年を迎えました。「昨日できたばかりだと思ったのに、もうそんなになるのか」とお感じになる方も「まだ十年か」とお感じになる方もおられると思います。

実際、私たちの研究している基礎生物学についていえば、この十年といえは一般には驚くべき急速な進歩のあった時代であった、という印象を与えた時代でした。しかし、実体はもう少しばかり複雑なのではないかと考えます。生命現象の極めて基本であるような問題については、この間に私たちの理解は急速に進みました。それだけではなく、その結果、かつて歴史上になかったようなバイオテクノロジーという言葉がもてはやされるようになったのも、この十年の間の事であります。しかし、一方、生命現象の中にはその理解の程度が数十年以前とは、さして異なっていないものもあります。そうであればこそ、今後の十年、二十年の当研究所の使命の重要性和夢のふくらみのあることを痛感せざるを得ません。

十周年を記念する、ということは慶事であり、お祝いごとであります。この小冊子もそのつもりで作ってみることにしました。当研究所設立のために、それこそ血のにじむ苦勞をされた初代所長桑原先生、準備段階から格別の尽力をされた古谷先生には、それぞれの立場から十年の歴史として記しておくべき事がらについて、重要な原稿を書いて頂きました。それ以外については、全く自由なスタイルで寄稿をお願いしました。当研究所に着任後ごく短期にしかならない教授方にも、ざっくばらんに一筆書いて頂きました。或は、そういうのが、このお祝いごとにあふさわしいのではないかと考えたわけです。

この小冊子の編集につきましては、江口吾朗先生に勞をとって頂きました。厚くお礼申し上げます。



基礎生物学研究所長

岡 田 節 人